



巡礼その五十四 大分3

2021年11月29日

6時30分、タクシーで羽田空港へ。なんとチェックインから荷物を預けるところまで全てセルフになっていた。まず朝食の空弁を買う。今回はヨシカミのカツサンドを買ってセキュリティー・チェックへ。ゲートの前にはなんと蕎麦屋、寿司屋、おにぎり屋などが開店して朝食を出している。いつも6時台の飛行機なので店が全て閉まっている。とても賑やかだ。特に気に入ったのが立ち食いの鮓、1000円で数貫食べられる。今度は絶対鮓だ。1年ぶりの飛行機なのでワクワクする。定刻に離陸。カツサンドを食べる。万世、まい泉、などあるが、ヨシカミが美味しい。落語を聞いていたら姫島が見えてきた。もうすぐである。レンタカーが一番安かったご当地のくにさきレンタカーである。トヨタのヤリスで出発。今日は安岐町と杵築市を回る。ちょうど杵築城でお昼になったので、「PIENA」というイタリアンのお店でランチを食べる。ひき肉とソーセージのアラビアータ(900円)にセット(350円)をつける。まずカウンターに並べた前菜のようなものを取ってくる。ウリのピクルス、白菜のペペロンチーノ、安納芋のレモン煮、そしてサラダである。野菜が新鮮な地野菜でとても美味しい。アラビアータは本格的で、フォカッチャも美味しい。デザートプリンとアイスコーヒーを飲んで出発。無事庚申塔などの見学が終わりまだ時間があったので千燈石仏と千燈寺跡の仁王像を見に行く。国東はどこも紅葉でいたるところが美しく染まっている。特に千燈寺跡にはイチョウがたくさんあり、黄色い絨毯である。宿は以前泊まった「あかねの里」が休業しているので、同じ系列の「溪泉」に泊まる。古いが部屋はツインで広い。早速、風呂へ行く。サウナ、内湯、水風呂、露天風呂、露天の壺湯がある。源泉掛け流してとても良い湯である。サウナと水風呂に2回入り、露天の壺湯に浸かる。38度ぐらいで気持ちが良い。1時間ぐらい入っている。6時30分に夕食なので食堂へ行く。予約の段階で最高ランクの食事にしてもらった。それで1泊2食で12200円である。まずヒラメの薄造りを肝ともみじおろし、目ネギで食べる(絶品)。もう一つは車海老、本鮪、イカ、ブリ、タイの刺身でこれも美味しい。次に八寸がでて海鮮茶

碗蒸し（絶品）が出る。メインの豊後牛の陶板焼きは A5 の肉で美味しい。天ぷらもハモと野菜であっさりして良い。ご飯とブリの赤出汁、デザートは杏仁豆腐で全て手を抜いていない。これでこの値段は信じられない。料理だけ見れば 35000 円クラスの宿と同等である。よくこれだけの板前さんを確保していると感心する。大満足してもう一度風呂に入って寝る。

11月30日

6時に風呂へ行く。露天はお湯が抜かれていた。内風呂は 40 度で気持ちが良い。7時朝食、定番のアジの干物で美味しい。今日は 3 時ごろから雨になる予報だが早朝はとても良い天気である。国東と国見を回るが見るところが多く予定通り見られるか心配である。8時出発、なんと初めから違う場所へ行ってしまふ。もう一度カーナビをセットするがそれでも迷う。うろろうしていると軽トラのおじさんが心配して声をかけてくれた。目的地を告げると後について来いと先導してくれる。すると一軒の家に立ち寄る。おじさんは目的地を知らず、友人に聞きに行ったのだ。そこで教えてもらい、無事目的地についた。今日は何回も迷い予定が進まない。でもドライブしていて周囲は紅葉でとても楽しい。神社がとても多く、神社にはほとんどイチョウがあるのでどこでも真っ黄色である。わかっていただけだが、コンビニも食堂もラーメン屋もない。たまに少し大きな村にはデイリーヤマザキがあるぐらいである。お昼になっても何も無い。なんとかデイリーヤマザキを見つけ、中に入るとチキンカツサンドとシャケのおにぎり、ワカメのおにぎりだけが残っていた。全部買って車の中で食べる。このころから小雨が降り出した。なんとか見学は進んだが、本日分全ては無理なので、重要なものだけ見てホテルに戻ることにする。雨がひどくなってきたが、傘を借りるのを忘れ、濡れながら見学する。最後の一つが曲者で山道を登りながら滑って膝を打ち、おまけにメガネまで無くす。あきらめて戻るとき何気無く民家の横を見るとなんとそこに目的の庚申塔があった。全然違う所を探していた。今夜の宿「真玉スパランド」へ向かう。ここは以前泊まっているので、すぐに貸切風呂を予約して飛び込む。この貸切風呂は源泉掛け流しでとても良い。泉質は単純泉で肌に優しい。6時30分夕食、刺身、天ぷら、岩魚の塩焼き、メインはしゃぶしゃぶで締めには嬉しいことに豊後高田名物の蕎麦（新蕎麦）が出た。もうクタクタなので部屋に戻り、すぐに寝る。

12月1日

6時に風呂へ行く。7時半に朝食、おきまりのシャケの定食である。食後にコーヒーとヨーグルトを食べる。まず「真玉スパランド」の前の小山にある石仏を見るために散歩する。戻りチェックアウトして真玉町の周囲を見学する。福真磨崖

仏は3回目であるが前回は修理中で見学できなかった。ここから夷谷へ向かう。秘境の国東の中でも特に秘境なのが夷谷である。なんとか森の中にある庚申塔も見付き、いまは無住になった西狩場の村へ行く。住居はいくつか残っているが誰も住んでいない。この周囲は本来石垣でできた美しい棚田があったが人がいないので石垣だけが残り廃墟のようである。ここでも庚申塔が見付き大満足で次に向かうが、次の庚申塔が全く見付からなかった。もう1時を過ぎたのに何も食べるものがない。昼食は諦めて、豊後高田の周りを見て3時半に本日の宿、臼杵「春光園」に向かう。高速に乗って1時間半で臼杵である。「春光園」は臼杵で有名な料理旅館でフグの名店である。ここのフグを食べるためにこの時期を選んだ。温泉ではないが素敵な檜風呂もあり、洋室もある。とても優雅な建物で築100年である。いよいよ6時半からフグのフルコースである。本日の客はコロナで私たちだけである。隣の料亭の方で食べる。とても古いが手入れの行き届いた部屋で8人がけのテーブルで二人並んで庭を眺めながら食べる。ライトアップされた庭が素晴らしい。ベテランの仲居さんがサーブしてくれる。まず突き出しの5品である。黒豆、むかご、フグヒレの南蛮、フグの昆布締め、フグの煮ごり、全て絶品である。フグの煮ごりはよく食べるが、ここの煮ごりはプリプリで全く違う。次はフグ刺しである。まずはその量に驚く。東京であれば4~5人前である。ここで期待したキモ(無毒)が出る。まずはすりつぶしたキモが大量に、そして潰していない大きなキモも4つ出る。カボスがたっぷり入ったポン酢に溶かしたキモ、もみじおろし、青ネギを入れ、そこに芽ネギを巻いたフグ刺しを付けて食べる。もう言葉がない。それを繰り返す。すると別注の白子焼きが出てくる。大きさも焼き加減も最高である。カボスを絞って一気に頬張る。白子独特の甘みが口全体に広がる。今まで食べた白子は一体なんだっただろう。頃合いを見計らってフグの唐揚げ登場。全部骨つきでとても美味しい。ここの店では東京のような骨のない白身は一切でない。フグちりでも全てアラの部分である。特に口の周りの美味しさには驚いた。ついにフグちりの登場である。中居さんが大皿に盛った具を見せてくれる。フグのアラ、豆腐、エノキ、シメジ、白ネギ、白菜、春菊、これを2回に分けて作る。フグちりも残っている肝をポン酢に溶かして食べる。もう大満足で完食。中居さんが雑炊を作る。もうお腹いっぱいだけれど食べてしまう。最後にフルーツが出て終了。東京であれば一人3~5万はとられる。ここでは1泊2食ついて白子も入れて3万円である。部屋に戻るとき、中居さんが店の中を説明しながら見せてくれた。なんと殿様専用の玄関もあった。部屋に戻り寝る。

12月2日

6時起床、7時半朝食、これがまた素晴らしい。フグの西京焼きのようなもの、とろろ、湯豆腐、関アジのりゅうきゅう、おかゆは地元の海藻（粘りけ）が載っている。若女将（宿の娘）といろいろ話をする。夏のフグがとても美味しいそうだ（白子はない）。フグちりは味噌味。高速に乗り中津まで1時間半。中津、宇佐、院内を回り、安心院で地獄めぐりをする。トンネルを巡るので面白いが、閉所恐怖症には辛い。真玉に戻り見逃した庚申塔をさがして細い道でUターンをした時、落ち葉で埋まっている側溝に左前輪が落ちた。スタックしてしまい戻らない。そばに竹が落ちていたのでタイヤの間に絡ませなんとか脱出。よく見るとバンパーの一部がずれた状態になっている。このままでは全額修理代がかかるので、レンタカー屋と警察に電話する。20分ぐらい待つとパトカーがやってきて現場検証して事故証明を出してもらおう。時間もちょうど良いので大分空港に戻り、ガソリンを入れてレンタカー屋に返す。全て説明して終わりかと思ったら、修理代は保険で全額出るが、修理の期間、車が使えないので2万円かかると言われる。なぜと聞くと書類に明記されているという。それでは仕方がないので2万円払う。空港に送ってもらい、昼食がまだなので3階にある寿司屋へ行き、上にぎりを食べる。途中で携帯が鳴ったので出たら、国東レンタカーからで、今下に来ているのでお金を取りに来てとのことであった。すぐに下に降りて行くとレンタカー屋の人が2万円返してくれた。どうしたのかと聞くと、バンパーを持ち上げて押したら元に戻ったとのことであった。初めは頭にきたが、とても良いレンタカー屋である。寿司屋に戻り、残りを食べて、関サバを注文する。その後お土産を買って機内へ。